

活動名 エコ学習の実践	団体名	大学環境ネットワーク協議会(UE-net)
	地域	広島県広島市
	代表者	会長 森嶋 彰
	支援金額	32万円
活動概要		
<p>子ども達が、環境問題について自分から進んで取り組んでもらえるように、県内の大学生が協力しあい、子ども達の興味をくすぐるような教材を製作し、また、実際に小学校などに出向いて、一緒に体験してもらう機会をつくることで、子ども達の取組だけでなく、家族をまきこみ、家族全員で環境について考え、取り組んでもらえるような活動を行う。</p> <p>◆実施時期 通年(6/6～3/5) 広島県内各地(広島市、廿日市市、三原市、江田島市)</p> <p>◆参加人数 (準備作業や打ち合わせを除く主な活動参加者(延べ) ＜当団体とその関係者／一般等参加者＞)</p> <p>①環境講座 <22人／70人> ②エコショップ発掘調査 <約50人／省略> ③水生生物調査 2回 <5人／35人> ④・環境イベント参加 4回 <55人／展示等を含めると数百人規模> ・小学校出前講座 2回 <4人></p>		



エコマップ調査
フェアトレード店のカフェパコにて



教材作成の様子



水生生物調査 広島市佐伯区にて



環境に関する体験講座

◆実施に伴う効果

- ・内容と同時に「大学生のような世代が活動を行う」ということについて、その社会的な意義や、子どもたちが感じる親しみやすさについて、高く評価いただいた。
- ・2年間継続して助成していただいたことから、次の学年や他の大学に、活動のノウハウの移転を行ったり、新たな工夫を試行することができた。
- ・大学以外のいろいろな方と接する機会が得られた、ネットワークが広がったり、大学生が自ら、他と接するノウハウを持つこと等ができたことから、今後も様々なパートナーシップによる活動が考えられる。例えば、活動期間の終盤に東日本大震災があった際も、紙屋町交差点付近での街頭募金の活動をいち早く実施することができた。

◆苦労した点

2年目であり、今後の活動の展開を考えて、経験の未熟な学生も多くチャレンジしたが、不慣れな分、準備不足や(細かいところだけ)うまくいかなかったことなどがあった。

予算や活動の工程管理がうまくいかずに、広島県やEPOの方にサポートしていただく事が多くあった。

今年の活動にマツダ財団の助成を受けていたり、設立の際に広島県の予算の支援を受けたことなどを明示していたところ、小学校などから「何でもUE-netの予算でできる」と誤解された。消耗品ならまだしも、文房具などの道具まではなかなか準備できないことが、なかなか伝わらなかった。

エコマップについては、直接お店屋さんのご商売に関わる事であり、うまく意図を伝えて快く協力してもらうノウハウは、なかなか習得するのに時間がかかった。EPOでいろんなシュミレーションをさせてもらって、なおかつ、「ひろしま市民活動ネットワークHEART to HEART」で実際にヒアリングして、その様子をさらに、EPOのスタッフが聞いてきてくれて、注意を受けるといったことまでしたのに、最初に行った商店街のお店さんでうまくヒアリングができずに、もう1回聞きに行ったりした。

◆今後の課題・発展の方向性

22年度は、特に夏に体調を崩すメンバーが多く、出前講座などは体調管理をしっかりしないとけないと思った。

景気の低迷で、お店さんはいつものお仕事に忙しく、また、3月の最後にしようと思っていたことも、震災の影響で無期限延期になってしまった。また、お店さんのエコな取組が急に増えてくることも考えられるということなので、「エコマップの完成版」配布は23年度後半になりそうである。

でも、2年目もいろいろなことが、新しい学年の学生もそれなりにできたので、今後も22年度までの活動を継続しながら、新しいことにチャレンジしていける自信が、メンバーの中でできてきた。

23年度については、6月の環境月間の取組について既に活動が動き出しており、それが終わったら、エコマップの続きや新しい出前講座の教材作りなどに取組んでいきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

3月の大震災は、今後2～5年の資金調達や、事業者との連携において、大きな競合となると思います。ただ、長期的には、いろんな活動が広まったり、学生の意識が社会に開かれていく良い影響をもたらすと思います。何とか、あと「数年のヤマ」をこえて、息の長い活動を有意義に続けていけたらなあ、と思います。これまで協力してくれていたEPOも23年度から運営団体が変わったり、予算がかなり減ったりしてそうなので、もっと自分たちだけで有意義な活動を地域に提供できるように頑張っていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。